

Tatsuo's Profile

ふく だ 福田 たつお

祖父・福田赳夫(第67代内閣総理大臣)と父・福田康夫(第91代内閣総理大臣)から引き継いだ **一途** な性格。

慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、米国ジョンスホプキンス大学高等国際関係学研究所(SAIS)を経て、三菱商事株式会社入社。

当選回数 **3回**
(第46・47・48回衆議院議員総選挙)

高崎市(旧高崎市・新町・吉井)・藤岡市(旧藤岡市・旧鬼石町)・多野郡(神流町・上野村)



▶福田たつお オフィシャル Webサイト
URL : <https://tatsuo-f.jp/>

福田達夫

検索



党員募集中!

討議資料

自由民主党群馬県第四選挙区支部
(福田達夫事務所)

〒370-0073 群馬県高崎市緑町3丁目6-3
TEL:027-365-1192



自由民主党群馬県
第四選挙区支部支部長
(元 防衛大臣政務官
元 内閣府大臣政務官)

ふく だ たつ お 福田 達夫

自由民主党

世界の福田地域の達夫

〜頑張るあなたを守りぬく〜

コロナ最前線で闘う医療従事者・関係者の皆様。
休業要請や自粛などで苦しい経営が続く飲食・観光業の皆様。
授業やイベントの制限で我慢を強いられている学生や子供達。
皆様の頑張りをムダにしない、報われる社会をつくりまします。



みなさまと共に、つくる未来。

〜皆さまの「声」。それが私の政治の原点〜

私が、国会議員として働かせていただく
う」と決心したのは、中山間地の皆さまの
思いを知ったとき。

厳しくも美しい自然の中で、この地を愛
し、この地に生きる皆さまの声を、なんと
してもカタチにしたい。

眼前の課題として災害復旧はもちろん、
自然と共存するための林野政策や、担い手
不足に対応する過疎化対策など、地方創生
を国政の場で前進させてまいりました。

地域の課題を解決し、同時にその強みを
最大限に活かしながら、子や孫の代までつ
づく、真のゆたかさを実現していく。

国政の力でできることを、これまで以上
に強く着実に進めてまいります。

これからも、皆さまと喜びも悲しみも分
かち合いながら、地域の未来を、皆さまと
共に創ってまいります。

福田達夫





たふくおだ通信 vol.1

発行 2021年(令和3年)

政治の現場は地域にある

平成一九年十月、過去最大級の台風十九号が暴風雨を伴い関東を直撃。県内でも多くの被害を出した。

高崎市内の河川も氾濫水域ギリギリ。中山間地である上野村・神流町・藤岡市は大丈夫だろうか。

翌朝、福田達夫はいてもたってもいられず、中山間地に向かう。途中あちこちで山から水があふれ、土砂が崩れていた。湯ノ沢トンネルからは通行止めになっていた。

「行けるところまで車でいき、あとは歩こう」心配する同行者に「そう言い、車を進めよう。一刻も早く現場に入り、みなさんの無事を確かめたい。気持ち足を急がせる。被害は甚大だった。しかし、現場ではすでに復旧のため皆さんが力を合わせていた。皆さんの姿を見て、国政の立場でできることは、これまでに以上何でもやろう、という決意を新たにしたい。



▲土石流が押し寄せた藤岡市上日野にて、地元の方から説明をうける。



▲「第一回神流川に関する勉強会」にて。上野・神流・鬼石地域の宝である「神流川」。関係地域が行政の枠を超えて協力し、更に県や国をも巻き込んで、「豊かな森・関東一の清流を活用した希望あふれる未来への地域づくり」を推し進める。



▲県や国としっかり連携して、村の復旧を強力に後押し。(上野村)



▲土砂崩れの現場に入る。一日も早い復旧のため全力を尽くす。(神流町)

地域の課題を未来の光に

●風の傷跡

年が明け、台風十九号の爪痕が残る中。神流町にお住まいの方から、「台風以来、雨が降ると神流川の濁りが酷く、元に戻らない」というお話を聞いた。関東最後の清流が、このままではいけない。

川が濁って困るのは神流町だけではない。上流の上野村、中流の神流町、そしてダムのある鬼石地域。河川と共に生活する地域で問題を解決しなければならぬ。

●地域の未来を拓く勉強会

未来への展望を上野村・神流町・藤岡市鬼石地域の首長はじめ、国や県の行政、そして三地域の漁協にも呼びかけ、勉強会を設立した。

単に「川」に留まらず、山や森、人間社会まで視点を広げて、神流川と生活を共にしている地域の皆さんの思いを後押しし形にしていきたい。人がもう一度、国土の使い方を考え直す時代。一度は時代から取り残されたように見える地域が、今から半世紀の後、時代の最先端地域になっていたとしたら――。地域の夢を語り、それを具現化し、達成する。国政の立場で皆さまと伴走、自然と活力あふれる町村の方々と一緒に突き進む。それが、福田達夫の信念だ。



▲豚熱(CFS)感染防く防護柵(上野村)。国を動かし、地域と先手で対策を打つ。



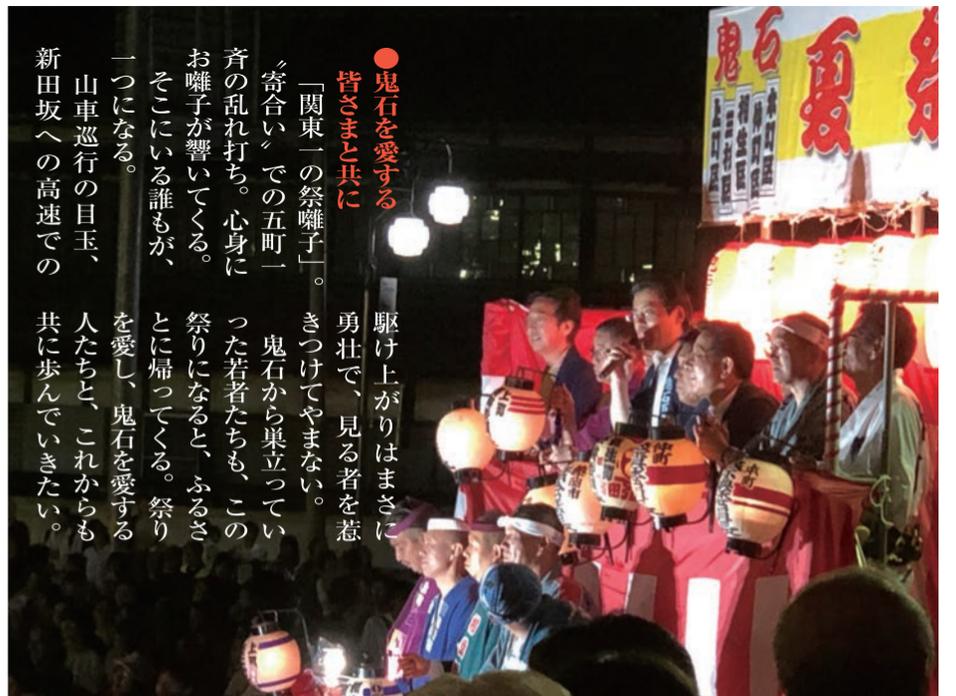
▲老朽化した御鉾橋架け替え。橋脚を川に入って視察(神流町)



▲フォレストーズチャレンジ！林業の現場視察(上野村)



▲土石流流出から1年。工事の進捗状況を確認する(上日野)



▲祭りが最高潮に達し、すべての人と一体感の中、挨拶をする。

●鬼石を愛する皆さまと共に

「関東一の祭囃子」。寄合いで五町一斉の乱れ打ち。心身にお囃子が響いてくる。そこにいる誰もが、一つになる。山車巡行の目玉、新田坂への高速での駆け上がりはまさに勇壮で、見る者を惹きつけてやまない。鬼石から巣立っていった若者たちも、この祭りになると、ふるさとを愛し、鬼石を愛する人たちと、これからも共に歩んでいきたい。